

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	清水 夕貴
所属機関名	獣医学部 獣医保健看護学科
職位	助教
在籍年	1 年

教育の責任

獣医学部 獣医保健看護学科の教員として、獣医療看護分野の教育を担当している。担当科目は、動物内科看護学（A・B）、動物外科看護学（A・B）、動物医療コミュニケーション、臨床系実習などである。さらに、ゼミでは主に周麻酔期動物看護に関する研究指導を行っている。獣医療および動物看護に関する専門知識や技術の習得にとどまらず、動物の命を預かる責任感を育み、それぞれの動物看護観を養えるよう支援することが自身の教育の責任であると考えている。

教育の理念

- ・「主体的に考え、学び続ける力の育成」
言葉を持たない動物を看護するためには、試行錯誤を重ねながら問題を解決する力と、継続して考え抜く忍耐力が不可欠である。単なる知識の暗記にとどまらず、「なぜ?」「どうすればいい?」という問題意識を持ち続け、状況に応じた適切な判断ができる応用力を養うことを重視する。
- ・「倫理観と責任感の醸成」
動物の命を預かる者としての倫理観を持ち、飼い主や獣医療チームと協力しながら、個々の患者動物にとって最適な動物看護を提供できる人材の育成を目指す。
- ・「多角的視野の形成」
獣医保健看護学を基盤とし、獣医療に関連する多様な分野へ関心を広げ、学びを深める姿勢を育む。学際的な視点を養うため、教員同士の連携を強化し、学生がさまざまな角度から学べる機会を提供するよう努める。

教育の方法・方針

- ・「問題解決能力の定着」
学生が自発的に「考える」能力を養うため、講義内で問いかけや学生同士のディスカッションを取り入れている。学生が主体的に問題を解決するだけでなく、他者の意見を取り入れることで、多角的な視野を持って物事を捉える力を養うことを意識している。
- ・「学習の定着と理解の深化」
講義内では小テストや課題を実施し、学習の理解度の確認をするだけでなく、学生同士や学生と教員の間で意見を共有する機会を設けている。
- ・「視覚教材の活用」
講義および実習において、授業資料には動画や写真を多用し、理論と実践がつながるよう工夫している。また、動物を“見る”のではなく“看る”ことに慣れるため、動物病院内での患者動物の様子を記録した動画を活用し、動物のどこを観察すべきか、また動物に何が出来なのかを考えるトレーニングを実施している。
- ・「社会人としての基礎力の育成」
獣医療従事者に求められるコミュニケーションスキルや礼節、身だしなみを含むマナーについて積極的に指導し、安全かつ信頼される業務遂行能力の習得を促している。

教育の成果

授業アンケートの結果は少ないものの、その中で「より専門的なことを学べた」「重要なポイントがわかりやすい」「将来に関する視野が広がった」といった評価を得ることができた。

また、実習等では学生から「質問がしやすい」「丁寧に教えてくれる」といった学生の声も寄せられた。

今後の目標

1) 授業資料のアップデート

授業をより理解しやすく、興味を持てるように授業資料を作成・改訂し、学習効果を高める。

2) 学会等での卒業研究成果の発表

ゼミ生が自分たちの研究成果を学外で発表できるように指導・支援を行う。

3) 愛玩動物看護師国家試験対策の強化

講義内で愛玩動物看護師国家試験に関連する問題を取り上げ、学生が試験対策を早期に意識できる学習環境を整える。

根拠資料

2024 年度授業アンケート結果